

記憶を次代へ 戦後80年

7月上旬、倉敷市木見の山裾に立つ石碑(高さ約2m)の状態を水谷(富彦さん(82))・雄社市久代(が調査用紙に書き込んだ)。(台座にひび割れがある)

永寿さんは戦没者を祭る「忠魂碑」(慰霊碑)の現況を調べる岡山県信行会メンバー。陸上自衛隊OBら約40人で構成し、歴史を語り継ぐと2015年から県内で調査に取り組む。

木見地区の碑は劣化が著しく、刻まれた文字の判別が困難。住民への聞き取りで、1965年に建てられ「軍人墓」と呼ばれてきたことが判明した。

信行会はこれまで各地に立つ503基の保全状態や管理者などをまとめ、ホームページで公開。うち67基は崩落、倒壊などの危険があり、管理者不明の碑もある。軍人墓もつつそつとし

第2部「伝えるために」 ② 慰霊碑

遺族高齢化で管理難しく

た竹やぶに覆われ、汚れが目立っている。

「戦争の犠牲者を顕彰するためにも、守らねばならないんです。」「永寿さんが嘆息した。

忠魂碑は元々、明治以降に遺族や地域住民らが建立。戦後、GHQ(連合国軍総司令部)が「軍国主義の産物だ」と撤去させたが、日本が独立を回復した52年ごろから慰霊碑として建てられ、高齢化が進む。県連盟(岡山市)によると、83年に約3万1千世帯だった会員は24年に約1万4千世帯まで減少。平均年齢は80歳を超えている。

岡山県南區瀬崎地区の遺族会。慰霊碑の管理の協力を瀬崎公民館に呼びかけ、昨年から清掃に中学生のボランティアが加わった。

岡山県南區瀬崎地区の遺族会。慰霊碑の管理の協力を瀬崎公民館に呼びかけ、昨年から清掃に中学生のボランティアが加わった。

厚生労働省によると、全国の戦没者慰霊碑は、19年時点で1万6235基。うち780基は倒壊の恐れがあり、1495基は管理状況が不明だ。

主に管理を担ってきた遺族は減り、高齢化が進む。県連盟(岡山市)によると、83年に約3万1千世帯だった会員は24年に約1万4千世帯まで減少。平均年齢は80歳を超えている。

その子の世代となれば、戦争への関心低下が懸念され、多くの碑が管理者不在になるとの危険もある。

近年、全国では自治体管理を引き継いだ碑もあるという。浜井教授は「国策の犠牲者」を祭る碑の管理に行政が積極的に関与すべきだ」と強調し、警鐘を鳴らす。「碑が伝える歴史と教訓がきちんと継承できるのか、瀬戸際の状況だ」(亀井良平)

軍人墓の状態を確認する永寿さん。維持管理が難しくなった碑が岡山県内で目立つという(倉敷市木見)

